

第 29 回さくらの会 (2017 年 10 月 28 日) 質問と回答

「さくらの会は」、乳がん手術を受けられた患者さんの集いの会として、年 2 回開催しております。今回は、大和高田市立病院のご案内も兼ねて「健康いきいきフェスタ」の会の中で、開催致しました。当日は、台風の襲来前で天候不順でしたが、皆さんがとても楽しんでおられたように感じました。

それでは今回の質問の回答に移らせていただきます。今回は、時間が少し足りなかったため、質問を少数に限らせていただきました。

質問 1：手術側の腕で、採血や血圧測定をしないように言われました。術後 5 年経過しましたが、まだしない方が良いですか？元々、血管が細いので、採血などの際、何回もやり直しが必要で辛いです。

回答：手術側の腕で採血などを行わないのは、腋窩（わきの所）でリンパ節を操作した際に、リンパ管が損傷されている恐れがあるためです。リンパ管に損傷があると、手や腕にリンパ液が溜まります。その場合、採血や血圧測定から、蜂窩織炎という炎症を起こし、腕などが赤くなって腫れあがります。その後、しばしばリンパ浮腫に移行し、手や腕が腫れたままになります。センチネルリンパ節生検をされただけの方は、リンパ浮腫が起きることはあまりないのですが、一旦、リンパ浮腫が起きると、なかなか治りませんので、予防が大切です。特にガーデニングや畑仕事の際の手袋着用は、必ず守ってください。

ただ血管の細い方で、片方からしか採血できないのは大変です。どうしても反対側から採血できない時は、用心しながら、手術した方の腕から採血してもらうしかないですね。万一、手や腕が腫れたら、すぐに外来にお越しくください。

質問 2：術後の定期検査中は、乳がん検診を受けなくても良いですか？

またいつ頃から検診を受けた方が良いですか？

回答：当院では、術後 5 年間は、年 2 回の定期検査を行っております。術後の定期検査は不要とおっしゃる医師もおられますが、当院のスタッフは、定期検査は重要であると考えております。定期検査を受けておられる間は、乳がん検診を受ける必要はありませんが、自己検診は行ってください。特に皮膚転移は、定期検査ではわかりにくいので、皮膚に異常のある時は、外来等でわたしたちにお伝えください。

また定期検診が終わりましたら、定期的な乳がん検診を受けてください。この場合も、自己検診は重要ですので、必ず月 1 回は、行ってください。

質問3：乳がんは肝臓などに転移しやすいと教わりましたが、どのような症状があるのでしょうか？自覚症状や血液検査などについて教えてください。

回答：乳がんでは、リンパ節、骨、肺、肝臓、皮膚などによく転移します。まれに脳転移もみられます。ご質問の肝臓転移は、肝臓が「沈黙の臓器」と呼ばれ、自覚症状などあまりないのが特徴です。血液検査で肝機能異常を来すのは、かなり進行してからです。腫瘍マーカーが上昇した後、精密検査をしてわかることもあります。自覚症状もなく、血液検査でも異常が出にくいいため、肝転移は、やはり定期検査を行わないと見つけれられないでしょう。

一方、その他の転移でも、初期の骨転移や肺転移は、自覚症状がないので、こちらを発見するためには定期検査が必要です。ただし脳転移の場合は、頭痛や吐き気、めまいなどの症状がありますので、体調が不良の場合は、わたしたちにお伝えください。きちんと検査をして、本当に脳に転移があれば、放射線治療などで治療することができます。

「さくらの会」の講演でも、お話ししましたが、スタッフ一同、皆さんの乳がんが再発しないことを願っているのと同時に、皆さんがいつまでもお元気でいらっしやいますように、健康長寿を願っております。「さくらの会」にご出席の皆さん、体調に気を付けて、引き続き「さくらの会」を盛り立ててください。

2017年11月2日

大和高田市立病院 病院長 岡村隆仁